

保育目標	評価・反省	次年度に引き継ぐこと
<ul style="list-style-type: none"> <li>健康で明るい子どもの育てる (病気をしない体づくり)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食物アレルギーを持つ子がいるので、一人一人の状況を再度確認する作業を職員で行い、スムーズに対応することができた</li> <li>インフルエンザは12月一度流行したがそれ以後は流行しなかった。新たに新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、の対策をしていった。</li> <li>その他は大きな病気やけががなく過ごすことができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの対策はいろいろな機関との情報収集するとともに保護者への周知を徹底していくことが必要</li> <li>大きな怪我がないよう、ヒヤリハットを心がける</li> <li>再度アレルギーの子どもの対応を、職員全員周知徹底する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>食に関わる体験を積み重ねる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>畑の収穫物、旬の食材を意識的に子どもたちに触れさせ、味わうことができた。(梅ジュースづくり、ふき、トウモロコシの皮むき等) 食の体験と共に、四季を味わうことができた。食に対する興味、関心につなげることが出来た。</li> <li>行事の中ではなく、日常の中での食育を意識しながら、伝えていく作業をしていった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意識的に体験させていかないと伝わらない事なので、計画的に子どもたちに提供していく</li> <li>家庭へは体験の大切さとともに安全性も啓蒙していきたい。</li> <li>新型コロナウイルスの対策を考えながらの活動を進めていきたい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>心と心が通いあう挨拶をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り活動、地域との関わりで、人を思いやる気持ちがあるように、「ありがとう」という感謝の言葉が自然に子どもたちの口から出ている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り活動や地域との関わりのように異年齢の人とのかかわりは良い経験になるので継続することが大事だと考える。</li> <li>また、家族、友だち、先生にも挨拶が大事なことを伝えていく。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との関わりを大切にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との関わりでは、赤間駅前カムカムまつり、赤間西地区コミセンまつりに参加している。</li> <li>また、城ヶ谷区福祉会との交流や高齢者施設の訪問も継続してできていて、子ども達にもいい経験になっている。</li> <li>サニックスラグビー教室、いきいき出前コンサートがあり、また新しい体験をすることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の行事やラグビーやコンサートは新型コロナウイルスの影響もあり、配慮しながら取り組む</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の移り変わり(四季)を十分に味わう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一年を通して梅、梅の木の観察をして食育につなげたり、園庭や、園外の自然に意識的に目を向けるような声掛けを子どもたちにしていった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が自然の小さな変化を見逃さず、随時子どもに伝えていく</li> <li>職員、園児が自然研修を受け、自然に対して再認識できるようにする</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>思いやりの心を育てる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各クラスに支援が必要な子どもがいて、他児とのかかわりもスムーズにできている</li> <li>異年齢児のかかわりは、三歳以上児だけでなく、未満児の中も見られ、自分より年下の子に対して優しく接している姿がある。</li> <li>地域の方々や高齢者施設を訪問することによって、いろいろな年齢の方と触れ合う体験ができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援が必要な子も一人一人の個性をいかせる保育に取り組んでいきたい</li> <li>うまくかかわれている子どもたちの姿を認めていく</li> <li>自分が好きと思える子どもを育て、他人にも目が行き届くようになってほしい</li> <li>新型コロナウイルス感染症の対策を考えながら、高齢者施設とのかかわりを進めていく</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>素直に自分の気持ちが言える子どもにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭ではできない体験をし、楽しかった、怖かった、うれしかった等、気持ちを表現し、言葉に出すことができていた</li> <li>保育園で明るく元気に過ごせていた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの気持ちしっかり受け止め共感し、保育士が感じたことを言葉にし、子どもたちに伝えていく</li> </ul>